

普通煎茶4キ口の部 1等1席
農林水産大臣賞

品評会は栽培と製造技術向上の場 自分はまだまだ。もっと良いお茶を

相藤農園 相藤 直紀さん (藤川区)

皆さんの支えあってこそ

正直驚いています。まったく予想していませんでしたので。相藤農園は曾祖父から父まで大臣賞を受賞していますが、私自身の長年の目標は「1等」に入賞することでした。今回の結果を受けて、少し実力がついてきたのかなと実感しています。それでも気象条件や摘採時期などの様々な要因がうまく重なったこと、お茶摘みさんと農協、行政など皆さんの支えがあってこそ最高の受賞だと思っています。

品評会は技術向上の場

仮に自分が納得するお茶ができたとしても、必ずしもそれが良いお茶とは限りません。良いと思うお茶にも必ず反省点や改善点があります。自分一人では知りえない品質向上のヒントを品評会の審査結果が教えてくれるのです。次年度のお茶作りに活かすための場、そして自分自身が成長できる場が品評会なのです。出品を続けて、品質向上のために試行錯誤を繰り返して、飲む人が「美味しい」と言って

くれるお茶作りは先代から受け継いできた相藤農園の伝統なのです。

先輩たちから学ぶ

お茶作りで大切なことは、日々変わる気象条件に合わせて細やかな茶園管理を行うことです。摘採前になれば毎日茶園に通い、新芽の状態を確認しますが、春先の冷え込みで伸び悩んだときはさすがに心配になり、先輩たちに相談しました。そのように悩んだ時は、お茶について豊富な経験をお持ちの先輩たちに技術的な指導をお願いしています。

お茶に携わり始めた頃は、今ほど周りの意見を聞くことはなかったと思います。一番身近に父という師がいたので、日常生活の中で多くのことを学んできたからです。父が亡くなった時も、漠然と「一人でもできるのではないか」という自信がありました。しかし、現実には甘くありませんでした。父亡き後の数年間、品評会でも入賞から遠ざかり、実力不足を痛感していました。そんな時、悩む私を助けてくだ

さったのが先輩たちや農協などの関係者の皆さんです。惜しみなく技術や経験を教えてくれる先輩たちの存在は、私の様な若い農家にとっては、何よりも変えがたいものなのです。

産地賞もたらすもの

川根本町のお茶は7年ぶりに「産地賞」を獲得することができましたが、この数年間は大変厳しい状況でした。年々出品する生産者の方も減って、寂しさを感じていました。「また産地賞を取りたい」と茶業関係者と話をしていたので、今回の結果は本当に喜ばしいことです。ただ最終的には作ったお茶が確実に消費者の元に届くことが産地としての目標になると思っています。そのためには、茶商はもちろん、行政や商工業、農協などと協力して川根茶を盛り上げていく必要があります。産地賞という称号をいかに利用するか、今後の川根茶産地が存続していく上で、重要なことなのではないでしょうか。



~interview-家族の声~



相藤 節子 さん

支えてくれた皆さんに感謝したい

代々受け継いできた伝統や技術を守り継ぐことは簡単なことではないです。納得のいくお茶が作れず悩む息子の姿を見てきました。それでも多くの皆さまの支えもあって、お茶に真摯に向き合い、品評会への挑戦を重ねてきました。

周囲の人たちも私たちのことを理解し、助けてくれました。お茶

摘みさんたちの協力も大きく、家族の力も大きかったと思います。応援してくれた地域の皆さんや関係者の方が自分のことの様に喜んでくれたことが本当に嬉しかったですし、この受賞を先代たちも喜んでくれているのではと思うと、私たちの心も落ち着きます。



▲ 毎年お茶摘みさんたちが出品茶の摘採を行う。
▶ 自宅の製茶工場でお茶の蒸し具合を確認する直紀さん。

